

今治寿太鼓保存会 第37代幹事長 佐川 基和

寿太鼓の由来

寿太鼓の歴史は遠く藤堂高虎公の今治城築城の時代に遡ります。宇和島、大洲の領主であった高虎公は、関ヶ原の戦いで東軍に味方し、その戦功に対して今張を加封されました。それまでこの地方は古くより今張の字が使われていましたが、高虎公の領有地となってから、今から立派な土地を開き治めるという決意をこめて今治と書かれるようになりました。今治城の普請奉行は高虎公の妹婿の父渡辺勘兵衛でしたが、土木監督として活躍した人が木山六之丞であります。彼は非常に有能な人物で、築城のみならず芸能にも優れた才能を持っていました。今も今治地方の盆踊り歌として残っている木山音頭の作詞作曲者、踊りの振り付け者でもあります。この木山音頭は築城作業にはげみをつけるためにつくられたと伝えられています。又、「今張」から「今治」への願いをこめて、築城の先づれ太鼓として格調高く打ち鳴らされたのが寿太鼓であります。

今治寿太鼓保存会について

寿太鼓は約400年前、今治城築城の際、先づれ太鼓として大工の士気を高めようと格調高く打ち鳴らされたのがその起源とされています。以来途絶えていたこの寿太鼓を復活させようと、昭和49年、今治市制50周年を機に、郷土の地域文化を掘り起こし、今治市の活性化を図り、それを育てて行こうと当時商工会議所会頭 神村清氏・菅野津太郎氏のもと関係各位、諸先輩方のご尽力により、今治青年会議所有志によって愛媛県下で最初の和太鼓集団として発足しました。

当保存会は創立以来(社)今治青年会議所の会員のみが会員となり、運営をしております。時代が移り、人が変わろうとも伝統芸能の継承者であるという誇りを持って37年間太鼓を打ち鳴らしてまいりました。今後40年、50年と益々その活動が充実するよう、新たな組織運営の方向性を見出す必要があります。また前述の通り、我々に託された郷土芸能振興活動であると共に、青年会議所の三信条「修練・奉仕・友情」を育む場でもありますので、多くのメンバーに入会していただきたいと考えます。伝統芸能の保存継承に努め、地域文化のより一層の発展に寄与して参りますので、本年度も(社)今治青年会議所のご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願いします。

	事業内容	実施月
1	初打ち	1月
2	成人式	1月
3	(社)今治青年会議所1月例会	1月
4	第3回総合芸能祭	1月
5	今治地方祭(春祭り)	5月
6	第13回今治市民の祭り「おんまく」	8月
7	第28回今治文化芸術祭 芸能祭	10月
8	第38回総会・忘年会	11月